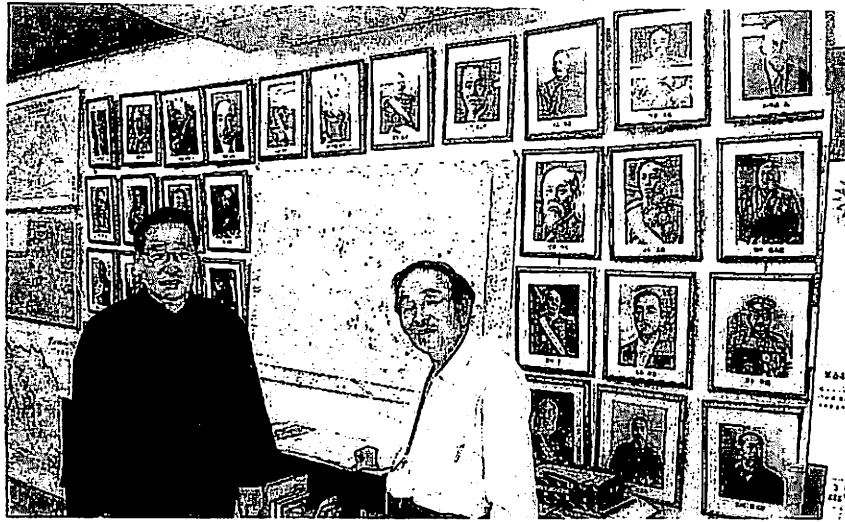


郷土史楽しく語り合う場

小田原・旧十字町にサロン

政財界や文壇の著名人多数が明治時代以降に住んだ小田原市の街角に、郷土史の展示を見ながら会話を楽しむサロン「十字町ヒストリア」がオープンした。お城南通り商店会が同市南町3丁目空き店舗を利用し、住民や観光客の来場を歓迎。歴史・文化を知る喜びとともに来客とつながる新しい商店街をめざす。



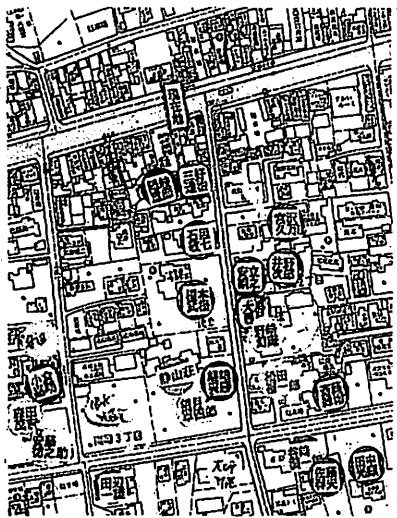
小田原に住んだ著名人たちの写真の前に立つ金子不二夫さん(右)と片野昭幸さん

写真や地図 商店会が展示

ヒストリアは国道1号諸白小路信号前にある。周辺は江戸時代の宿場町で、明治には熱海方面への人車・軽便鉄道の駅の乗降客でにぎわった。施設名の十字町は昭和前半までの地名だ。

商店会は人力で客を運んだ人車鉄道開通120周年の2016年を前に、郷土史の展示を企画。会長の金子不二夫さん(68)らが昨年秋から、小田原の温暖な風土や風光を好んで移り住んだ著名人らの資料を収集・整理し、ヒストリアを10月3日に開設した。

「思い出をしゃべりませんか」と呼びかけるチラシを配り、土・日曜の午前10〜午後4時に無料の一般開放を始めた。十字町と周辺に住んだ伊藤博文、山県有



著名人の家の地図の一部。右下に谷崎潤一郎と佐藤春夫の氏名。「現在地」が十字町ヒストリアの所在地

田、秋山真之、北原庄司ら著名人の写真約30枚や、幕末から昭和の小田原の地図・写真が壁を飾る。来場者はお茶を飲み、気づいたことを自由に語り合う。

著名人の家特定した手製の地図も掲示。ヒストリアの南数百坪に三好達治、榎本武揚、谷崎潤一郎、佐藤春夫らの氏名。谷崎と離別した女性が佐藤と結婚する「小田原事件」の現場だ。北西方向には政治家の森格、実業家の益田孝、皇族だった閑院宮、北原白秋らを表示。来場した高齢者らの思い出話をまとめ、新たな著名人の居住地がわかることもあるという。

金子さんは「お年寄りがここで休憩し、昔の話をすると元気になる。若い人も来て、地域の歴史に関心をもち、小田原の良さを知ってほしい」と話す。

大正時代の十字町の地図には、かまぼこ店のほか、

そとにや、たひや、かまこ、すだれやなど160軒を超える商店名がある。現在の商店会の会員は24軒だが、著名人の買い物について「奥さんがいいお客さんだった」「文人はお金がないこともあった」などと今も語られるという。

来場者が閲覧できる書籍や写真集をそろえ、オープン後に住民が持ち込んだ新資料もある。二宮金次郎の銅像を県内各地で撮影した手製の写真集や、森格の伝記などが寄贈された。

ヘッドマーク 申の図柄募る

京急大師線

京急電鉄が来年1月1日〜2月3日に大師線(京急川崎〜小島新田)に取り付けるヘッドマークのデザインを募っている。沿線にある川崎大師はこの時期、初詣客らでにぎわうことから

白木まき子氏(著者)の著書の紹介が中心。来年1月から鉄道網、災害、用水路などをテーマに展示する。

1897(明治30)年創業の呉服店を経営する片野昭幸さん(72)は「著名人たちはこの地域に密着していた。消費者との新たな接点のヒストリアで、お互いに知り合い、商店街の新しい価値をつくっていきたい」と期待をこめる。

実施。6回目の今回は、来年の干支「申」がテーマで、「2016川崎大師の文字を入れることも条件だ。同社で優秀作品2点を選ぶ。デザインをあしらったヘッドマークは、期間中に大師線走る1500形の車両の前後に取り付ける。入選者には12月下旬に連絡し、2万円分の旅行券や川崎大師のダルマなどの賞品を贈る。14年に募集した15年のデザインには283件の応募があったという。



昨年度の採用作品 京急電鉄提供

募集は30日まで。応募規定や方法などは同社公式サイト(<http://www.kei-kyu.co.jp/>)。問い合わせは京急(案内センター) (03-57789-8000)。